

《研究課題名》

当院における腹腔鏡下副腎摘除術の検討

《研究対象者》

2006年1月から2023年9月までに当院で副腎腫瘍に対して副腎摘除術を受けられた方

研究協力をお願い

滋賀医科大学において上記研究課題名の研究を行います。この研究は、対象となる方の滋賀医科大学で既に保有している試料・情報を用いて行う研究であり、研究目的や研究方法は以下の通りです。試料・情報の使用について、直接ご説明して同意はいただきず、このお知らせをもって説明に代えさせていただきます。対象となる方におかれましては、研究の主旨・方法をご理解いただきますようお願い申し上げます。

なお、本研究への試料・情報の提供を希望されない場合、あるいは、本研究に関するご質問は下記（８）の問い合わせ先へご連絡ください。

（１）研究の概要について

《研究課題名》

当院における腹腔鏡下副腎摘除術の検討

《研究期間》 滋賀医科大学学長許可日（2019年11月05日）～2024年9月30日

《研究責任者》 滋賀医科大学 泌尿器科 草場拓人

（２）研究の意義、目的について

《意義》

副腎腫瘍に対する腹腔鏡下副腎摘除術の手術適応やアプローチについて系統的な判断ができるようになり、患者の負担の少ない安全な手術を施行することができるようになるものと考えます。また、副腎悪性腫瘍に対する治療的意義が明らかになれば手術適応を検討する際の指標となります。

《目的》

副腎腫瘍に対する腹腔鏡下副腎摘除術は疾患別、腫瘍径、身体的特徴により手術の難易度や合併症に違いがないか明らかにします。副腎悪性腫瘍については術後の再発や再発率や長期予後について評価することで、副腎摘除術の有用性を明らかにします。

（３）研究の方法について

《研究の内容》

2006年1月から2023年9月までに滋賀医科大学附属病院で副腎腫瘍に対して副腎摘除術を施行した方のデータ（年齢、性別、身長、体重、腫瘍の画像所見、採血結果、術式、手術時間、気腹時間、術中・術後合併症、摘出副腎重量、病理結果など）を診療記録より抽出し、腹腔鏡下副腎摘除術の有用性を明らかにします。

オプトアウト

(4) 個人情報の取扱いについて

本研究を実施する際には、個人を特定できる情報は削除したり関わりのない記述等に置き換えたりして、ご提供いただいた試料・情報が誰のものか分からない状態にして使用します。ただし、必要な場合に個人を特定できるように、対象となる方とその方の試料・情報を結び付けることができる対応表を作成いたしますが、この対応表は施錠できる場所で担当者によって厳重に管理されます。

(5) 研究成果の公表について

本研究の成果は学会発表、学術雑誌およびデータベースなどで公表します。公表の際には個人が特定されることがないように、十分配慮いたします。

(6) 研究計画書等の入手又は閲覧

本研究の対象となる方又はその代理人の方は、希望される場合には、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で本研究に関する研究計画書等の資料を入手・閲覧することができます。ご希望の場合には、下記(8)の問い合わせ先へご連絡ください。

(7) 利用又は提供の停止

本研究の対象となる方又はその代理人の求めに応じて、対象者の方の試料・情報を本研究に利用(又は他の研究に提供)することについて停止することができます。停止を求められる場合には、2024年3月31日までに下記(8)にご連絡ください。

(8) 本研究に関する問い合わせ先

担当者：滋賀医科大学 泌尿器科 草場拓人

住所：520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町 泌尿器科学講座

電話番号：077-548-2273

メールアドレス：hquro@belle.shiga-med.ac.jp